

とめ市議会 だより

第83号

2025年5月1日発行



● タイトル：日向ぼっこ ●
● 作 者：宮城県佐沼高等学校 ●
3年 きねぶち 杵淵 もえ 萌 ●
● 作 画：アクリル画 ●

目 次

特集（当初予算）	2
2月定期議会	3
委員会報告	6
一般質問	10
Voice	15

165
事業

496 億 1260 万円

前年度比 7.5% 増



ふるさと応援寄付金事業 3 億 1600 万円
市制施行 20 周年記念事業 2400 万円

公共施設建設関連予算

米山複合施設建設 31 億 5600 万円
(仮称) 地域交流センター整備事業 2 億 4000 万円

子育て支援予算

認定こども園施設整備事業 2300 万円

市民生活関係予算

登米市 DX 推進事業 3 億 8000 万円
带状疱疹予防接種事業 2190 万円

道路整備事業予算

道路新設改良事業 5 億 2400 万円
市道舗装補修事業 1 億 3500 万円
橋梁長寿命化事業 1 億 3000 万円

農林業関係予算

日本型直接支払事業 6 億 1400 万円
林業振興事業 1 億円
私有林管理事業 6100 万円
有機センター(6 カ所)整備 4200 万円
多様な担い手育成支援事業 1200 万円

教育・学校関係予算

(仮称) 東部給食センター整備 5 億 1500 万円
南方地域小学校建設整備 1 億 4000 万円
水泳授業委託事業 264 万円

防災関係予算

消防ポンプ整備事業 6800 万円
災害時双方向情報伝達システム 4400 万円
高規格自動車整備事業 3370 万円
避難所環境向上事業 1660 万円

特別会計予算

国民健康保険 89 億 2670 万円 4.4% ↓
後期高齢者医療 10 億 2140 万円 11.3% ↑
介護保険 109 億 5372 万円 3.8% ↑

企業会計予算

上水道事業 【収益的収入】 29 億 1830 万円 2.0% ↑
【収益的支出】 28 億 5568 万円 4.3% ↑
下水道事業 【収益的収入】 38 億 2413 万円 2.2% ↑
【収益的支出】 37 億 5602 万円 2.2% ↑
病院事業 【収益的収入】 79 億 3413 万円 2.3% ↑
【収益的支出】 86 億 4745 万円 3.9% ↑
老人保健施設 【収益的収入】 5 億 5009 万円 7.8% ↑
【収益的支出】 5 億 5378 万円 2.4% ↑

令和7年度当初予算にかかる

総括質疑

一般財源、減税措置について

佐々木好博 議員

問 一般会計はどこに重点を置いて配分したのか。

答 歳出予算において、地方公共団体の行財政運営を支える基盤的経費を増額させている。また、総務費、民生費において、市民の安定した社会生活を保証するため、前年度対比で 1 億 7745 万 3 千円の増額としている。

問 現在、市民は大変な苦境に立たされている。市民を支えるという観点から「政策としての減税措置」について検討されたか。税を財源と考えるのではなく、政策推進のためのミッションとすべき。

答 税金は法的扶助などの社

令和7年度当初予算について

田口 政信 議員

問 改選期の当初予算は、骨格予算とするのが通例とされている。7.5% 増の 496 億円の予算は適正なのか。

答 行政サービスを停滞させないよう、市民生活に影響する扶助費や補助金をはじめ、政策的経費も早急に取組むための事業費を計上したので適正と考える。

問 個人市民税を 1.8% 減、法人市民税を 5.8% 増と見込んでいるが算定基礎は。

答 個人市民税は賃上げや米価高騰で増加が見込めるが、

納税義務者数の 8 割を構成する給与所得者数の減少が大きいため減とした。法人税は前年度対比で増加傾向にあり、法人税割の伸びを見込み増とした。

問 物件費で、委託料が前年比 12.7% 増の 68 億円となった理由・要因は。

答 物件費のうち 71.6% が委託料であり、電算委託料が 82% 増の 2.9 億円、施設管理委託料が 18.9% 増の 11 億円、更新年度を迎えた複数年契約業務が、物価高により増額していることも大きな原因である。

福祉、子育て、防災対策の財源について

鈴木 実 議員

問 国は地方税を 45.4 兆円の当初予算を計上した。それにより臨時財政対策債も初めて全国的にゼロとなったが、こども子育て支援加速化プラン」の拡充事業を伺う。

答 これにより本市では、児

童手当の支給対象者の所得制限を撤廃し、高校生まで延長、第 3 子以降の月額引き上げを行った。

問 「緊急防災・減災事業費」も事業メニューが追加されたが、これらを活用した事業は何か。

答 当初予算では、宮城県東部消防通信指令事務協議会負担金や中田中学校改修修繕事業に計上している。

問 臨時財政対策債が無くなったことをどのように受け止めるか。また、宮城県市町村に重点支援地方交付金額が約 55 億円あるが積極的に活用すべきと考えるがどうか。

答 本市でも臨時財政対策債がゼロとなった。これは地方交付税でみられるべきものと考えている。重点支援地方交付金も積極的に取りに行きたいと考えている。

■当初予算について



＊議案第11号 令和7年度登米市一般会計予算について

予算決算常任委員会において、熊谷康信議員から、骨格予算として編成すべきとの趣旨で修正案が提出されたが、議論の結果、原案のとおり可決すべきものした。一方で、少数意見の留保が行われ、（仮称）地域交流センターの基本設計及び実施設計業務に係る費用について、政策予算の提案は不自然であること、当該事業について、市民の理解醸成が図られていない現状であり、選挙後に改めて民意を反映し提案すべきとの意見が付された。

本会議では、少数意見を報告した上で、採決が行われ、賛成17、反対7で可決された。

■条例の一部改正



＊議案第23号 市基金条例の一部を改正する条例

新型コロナウイルス感染症対策基金の活用を終えたため、廃止するもの。

＊議案第24号 市保健福祉条例の一部を改正する条例

登米高齢者コミュニティセンターを廃止するもの。

＊議案第25号 市浄化槽整備推進事業条例の一部を改正する条例

これまで市が設置管理してきた浄化槽を、個人設置型に改めるもの。

また、これまでの浄化槽整備対象区域に新たに設置する浄化槽は、「個人設置型」とし、既存の「市設置型浄化槽」施設のうち十年を経過したものは、住宅所有者等に譲与できるものとするもの。

＊議案第26号 市営住宅条例の一部を改正する条例

次の箇所の市営住宅を用途廃止するもの。

- ・登米館山住宅
- ・東和内山住宅
- ・東和越路厚生住宅
- ・南方新高石住宅



＊議案第27号 市暴力団排除条例の一部を改正する条例

「暴力団の利益となる公の施設の使用等の制限に関する条例」の内容を盛り込み、一本化するもの。

■条例の制定



＊議案第32号 市（仮称）地域交流センター整備事業に関する住民投票条例の制定

「（仮称）登米市複合施設建設を見直す会」から、住民の賛否を問う主旨で住民投票条例の請求が市に提出された。

議論の中では事業の財源である「合併特例債」の考え方や市の抱える「負債」などについて質疑が展開され、提案された内容では住民の誤った判断を招きかねないとして賛成3、反対20、退席2で否決された。

●審議結果（意見が分かれた案件について掲載しました）

議員氏名 議案名	採決結果																										賛成	反対	議決結果
	1 熊谷康信	2 浅田琢哉	3 遠藤眞理子	4 伊藤善博	5 鈴木実	6 永島順子	7 首藤忠則	8 曾根充敏	9 佐々木好博	10 須藤幸喜	11 岩淵正弘	12 佐藤千賀子	13 熊谷和弘	14 日下俊	15 佐々木幸一	16 工藤淳子	17 武田節夫	18 岩淵正宏	19 中澤宏	20 及川昌憲	21 伊藤栄	22 田口政信	23 相澤吉悦	24 八木しみ子	25 氏家英人	26 関孝			
議案第11号 令和7年度登米市一般会計予算	×	○	○	○	欠	○	×	○	○	×	×	×	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	17	7	可決
議案第32号 登米市（仮称）地域交流センター整備事業に関する住民投票条例の制定	○	×	×	×	退	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	退	×	×	×	×	×	×	×	×	×	議長	3	20	否決

※採決結果欄 ○は賛成、(×)は反対または賛成しなかったもの、(欠)は欠席、(退)は退席

ズームアップ

2月定期議会で話し合ったこと

令和7年定例会2月定期議会は2月3日～3月12日までの38日間開催し、議案34件を審議し条例制定に関する1件を否決、その他はすべて原案のとおり可決しました。

■補正予算

＊議案 第2号 令和6年度一般会計補正予算(第8号)から
議案 第31号 令和6年度一般会計補正予算(第9号)まで
(条例の制定や新年度予算を除く)



一般会計・特別会計、企業会計では、歳入歳出それぞれ10億7894万円を追加し、可決予算の総額を895億4894万円としました。また、刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関連条例の整理に関する条例の制定と、登米市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例に係る専決処分の報告を受けました。

主な補正内容は下記のとおりです。

・中小企業振興資金融資費

見込みを大幅に上回る資金需要に対応するため、保証料補給金、利子補給金を増額補正するもの。

(2642万円)

・教育振興一般管理費

教育用コンピューターの定期的な購入は、基準的な仕様を決めて入札を行い、発注しているが、落札率が低かったことにより、減額補正するもの。

(▲1351万円)

・移住定住促進事業費

奨学金返還支援事業補助金の実績見込みにより約791万円を減額し、サテライトオフィス等調査事業に要する経費の中で、市場ニーズ等調査業務の実績見込みにより約100万円を減額するもの。

(▲892万円)

・敬老事業費

各行政区での敬老行事に要する補助金で、今年度の実績見込みにより減額するもの。

(▲270万円)

こんな質疑がありました

Q 中小企業振興資金保証料補給金の増額は、今後何件の増額を見込むのか。

A 120件を想定していたがすでに145件に達しており、現在も相談を受けているため3月までに180件を見込んでいます。

Q 教育用コンピューター更新事業に要する経費について、備品購入費の減額理由は。

A 市内3社からの見積りにより、その平均額を設定価格として入札を行ったが、落札率が58.3%となり大きな減額となった。

Q 奨学金返還支援事業補助金が減額となった要因は。

A 50件を計画していたが今年度は10件の見込み。事業の周知方法を検討する。

Q 敬老行事の実施地区と記念品贈呈のみの地区の割合は。

A 実施198地区(59.8%)、記念品贈呈130地区(40.2%)となっている。

公共料金見直し後の状況 (市民バス)

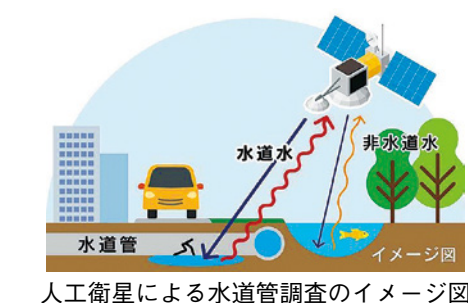
(12月5日)

市民バスの運行については、令和6年4月から見直しを行っている。見直しの概要は、①中学生以上75歳未満の方の運賃を100円から200円に改正、②学生のみを対象としていた定期券に一般利用者を追加し、フリーパスに名称変更、③フリーパス1か月、3か月に加え、新たに6か月の利用期間を設け、割引適用する、の3点である。

人工衛星を活用した水道管路の漏水調査業務
(1月16日)

人工衛星を活用した水道管路の漏水調査は、広範囲かつ効率的に漏水箇所を特定できる革新的な技術であり、特に、早期発見やコスト削減、環境負荷の軽減において大きな効果が期待される。

適切な運用体制を整えれば、持続可能な水資源管理に貢献する有力な手段となるが、導入コストや制度に課題があるため、地上調査との組み合わせや段階的な導入が重要であると考えられる。



人工衛星による水道管調査のイメージ図

現地調査 (12月5日)
ごみの排出・再資源化の状況

資源化協同施設および市クリーンセンターにおいて、本市のごみ全体の状況について調査した。プラスチックごみについては、令和6年4月から、これまでの「プラスチック製容器包装類」に加え「プラスチック製品類」を資源ごみとして回収しており、その回収量も増加している。一方、プラスチックごみの分別回収を知らない市民もいまだに多いと思われるため、更なる周知が必要であると感じた。

各家庭でごみの分別に取組むことにより、市民の環境意識の向上や行動変容につながられる仕組みを構築し、再資源化ごみ回収量の増加を図ることと、可燃ごみなどの減量をさらに進め、生活環境の向上に努められた。



ライフラインの集中している本館地下階

登米市民病院の施設内等の状況

(12月9日、1月23日)

本館の地下階には、機械室・発電機室等のライフラインが集中し、大規模災害が発生した場合、機能停止する恐れがある。現在は、部分的な修繕で対応している。

当病院は長年にわたる、住民が安心して暮らせるよう地域に密着した医療を提供しているが、今後も病院機能の一層の充実化を望むとともに、当病院の新築も含め検討すべきである。

市内企業訪問
(12月9日、1月23日)
(株)松下塗装(米山町)

同社はカチオン電着塗装をメインとし業績の約8割以上をトヨタからの受注が占める企業である。同社として新たな取引先確保を目指す上で、人員確保が課題となっている。本市としては学生と企業をつなぐ取組を更に進める必要がある。

迫りコー(株)(迫町)

迫りコーは主にプレス加工による電子機器の部品を作成する会社である。同社は社員出勤の多様性に対応するため、一人で3種類の業務スキルを身に付ける取組を実践中である。また、働く環境整備に積極的に取り組む姿勢には感銘を覚えた。

S&B食品(株)宮城工場(中田町)

「食卓に、自然としあわせを」を企業理念とする、調味料など三千種類の商品を扱う企業である。



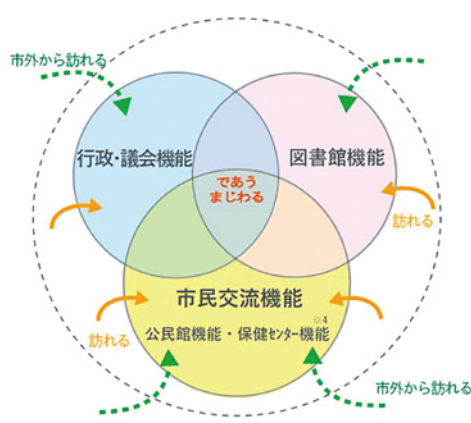
産業振興会からの意見書の提出

産業振興会との意見交換会
(1月23日)

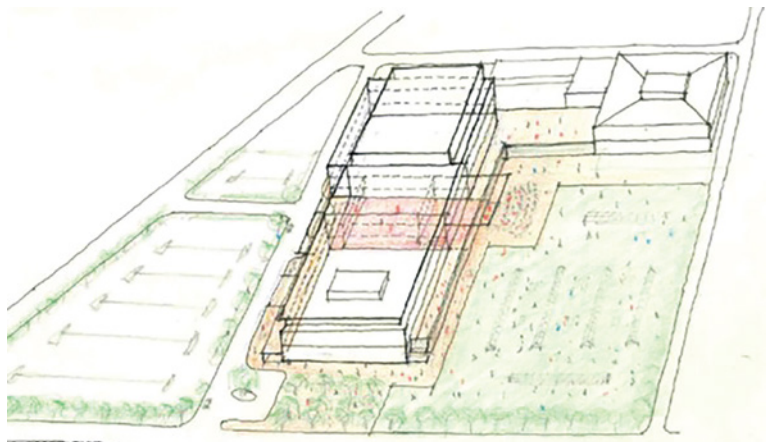
現在若者の人材確保が課題となっており、「意見書」も出された中で意見交換会が開催された。会議ではインターシップ事例や、学生と企業をつなぐ場所の提案など具体例も提案され、委員会としては若者の人材確保に向けた取組の調査研究を推進していかねばならない。

シリーズ 中心市街地等活性化特別委員会 レポート6

(仮称) 地域交流センター基本計画(案)が7年1月27日に執行部から示され、特別委員会で協議を行っています。基本計画は、基本構想をもとに具体的な機能等を整理し、設計につなげるものです。



3つの機能の交わりのイメージ



(仮称) 地域交流センター施設配置アイソメパース
(基本計画時の検討段階のものであり、今後変更となる可能性があります。)

【想定する機能別計画規模面積】

機能	規模
市民交流センター・公民館機能・保健センター機能	約 5,800 ㎡
図書館機能	約 3,000 ㎡
行政機能・議会機能	約 8,600 ㎡
合計	約 17,400 ㎡

1. 基本計画(案)に反映された特別委員会からの意見

- 施設整備の基本的な考え方に、本市の豊かな自然環境、農業、林業、ものづくりなどの産業、歴史や文化・伝統など、本市の誇れる魅力を引き出し発信する施設であることを追記するべき。
- 3つの機能が連携することで新たなものが生まれていくという表現を踏み込んで記述するべき。
- 諸室と共用化の検討図について、3つの機能を面積に応じて大きさを変えて表記するなど見やすくイメージが湧くような表現が必要
- 2つの事例(周南市、長崎市)について、本市と規模が違い過ぎるので、同規模自治体の成功事例を載せた方が良いのではないかと。

2. 公民館機能と保健センター機能のあり方について協議

中心的役割と市全域への波及のあり方について協議した。

⇒今後、プロジェクトチームを発足させ検討するとの報告があった。

会派代表質問

2月定期議会において、市長から7年度の施政方針が示され、5会派の代表が質問を行いました。内容を要約してお知らせします。

会派 代表質問者

- 新・立志の会 岩淵 正宏議員
- 大地の会 佐々木幸一議員
- 太陽・みらい21 氏家 英人議員
- 日本共産党市議団 鈴木 実議員
- NEXT 熊谷 康信議員

問 7年度、力を注ぐ取組の方向性は

答 市民生活を守り、必要な支援に取組む

新・立志の会



岩淵 正宏 議員



などを見据えながら、登米市民病院整備事業も含め、検討していく。

問 学校再編後の、閉校校舎の活用は。

答 地域の声を聞き、民間活用の可能性も探る。地域の活性化につながる利活用の具現化に向け取組んでいく。

問 (仮称) 地域交流センター整備について、合併特別債の活用が財政面で有利となることを、もっと情報提供すべきでは。

答 事業内容のほか財源についても、理解いただけるよう、市公式ホームページや広報で発信する。

問 市長の施政方針を問う

答 7つの重点施策で推進する

大地の会



佐々木幸一 議員



問 経営改善の方向と今後の病院のあり方は。

答 医療需要の変化に対応した回復期、慢性期へ対応した病院整備と、地域包括病棟整備で経営改善を図る。

問 登米市学習スタンダードの実践と、全国学力・学習状況調査との結果の差をどう考えるか。

答 スマホ、ゲームなどの利用で家庭学習時間が減少したことが反映されたと考えている。

問 (仮称) 地域交流センターを人口減少対策の「核」として位置付けているが、その核を中心に効果的な人口減少対策とどう結びつけていくのか。

答 東京一極集中主義を是正できない国の政策が一番

の原因である。この施設を核に交流人口、関係人口の拡大を図り、政策を総動員していく。

問 新森林組合設立で、林業振興にどう結びつくのか。

答 小規模な組合では林業従事者の確保、常勤理事の設置もままならないので、合併することでスケールメリットを生かした林業振興につながると認識している。

問 今後予想される多額の財政需要に、財政の健全性を保ちながら事業を進められるのか

答 市民要望、行政需要に応えながら、持続可能な行政運営、財政の健全性を保つことが第一点である。市民の不安に、しっかりと説明をしていく。

問 施政方針、市長の政治姿勢を問う

答 幸せを感じられるまちづくりを推進したい

太陽・みらい21



氏家 英人 議員



問 人口減少社会の中、今後も本市に3つの市立病院は必要か。また、老人保健施設の民営化の考えは。

答 医療需要の動向や施設の老朽化、医療従事者の確保状況などを見通しながら十分に検討を重ね、将来的な市立病院のあり方を検討する。また、老人保健施設については、指定管理者制度の導入や民間譲渡、民間活力の導入など、経営形態について検討を進める。

問 移住・定住促進に向けた取組を実施しているが、人口減少、少子高齢化は日本社会の流れと受け止め、今本市で暮らしている人々が幸せを感じられる政策に比重を置くべきでは。

答 人口減少を前提としながらも施政方針に掲げた各

種施策を実施することにより、減少幅を緩やかにするとともに、市民の暮らしやすさを探求し、幸せを感じられるまちづくりを推進したい。

熊谷市政8年間の自己総括について

問 市長在任8年、自己採点で何点をつけるのか。

答 自ら評価を下す立場にない。採点は市民皆さまに判断いただきたい。

問 3選出馬への意思はいつ固めたのか。

答 今やるべきこと、今やらなければならぬことへの強い意志を持って皆さまの英知をお借りしながら、この度、次なる市長選に挑戦することとしたものだ。

問 公共料金等、今後も負担増を求めるか

答 今後もコストの再計算で、見直す

日本共産党市議団



鈴木 実 議員



問 日本共産党市議団が行った市民アンケートでは物価高や公共料金の値上げで85・7%の市民が「生活が苦しくなった」と答えている。実情をどう受け止めているか。

答 全国的に生活の苦しさが増す状況にあり、市民にとっても、大きな負担になっていると受け止める。国策として継続した物価高騰対策が必要。国に対し、強く要望していく。

問 地域医療の充実について、今後の設備の方向性を伺う。

答 既存建物の増改築での対応は難しいことから、建て替える基本とした施設整備が必要である。

問 市民理解の醸成を図るべき

答 議会では承認を得ている

NEXT



熊谷 康信 議員



問 未来のまちづくりの核として、(仮称) 地域交流センターを定義するならば、その課題解決を行った上で進めるべきである。

答 庁舎は災害対策拠点にならなくてはならない。リスクを想定される地域への建設を推進するということが、市民理解が図れない要因である。

安全安心に暮らせるまちづくりの推進に向け、一度立ちどまって考えてみるべきでは。

問 骨格予算に、政策的予算である(仮称) 地域交流センター整備事業の計上はどうかと考える。

答 前例踏襲ではなく、事業の「必要性」「有効性」「効率性」を踏まえ、未来につながるまちづくりに向けて予算を編成した。骨格予算を基本としながらも、行政サービスを停滞させることがないよう、真に必要な事業や早急な取組を要する事業費を計上した。

2月定期議会一般質問

14人の議員が 市政に対する一般質問を行いました。

一般質問は、議員の調査研究活動や、住民の声、自身の考え方をもとに、市政全般にわたって市長などの方針を問うものです。



相澤吉悦 議員

問 今後の稲作経営のあり方について

答 令和6年度産米の概算金は、60kg当り1万9100円になった。この価格が今後も続くようにするために私は、飼料用米など新規需要米や麦、大豆などに対して、転作物への交付金の拡大など、早急な対策を講じていかなければならないと思う。

問 米の価格は何とかこのまま維持していけるようにさまざまな対策を

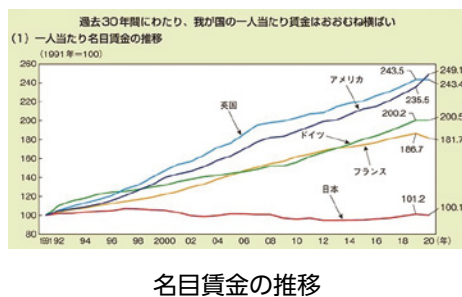


佐々木好博 議員

問 本市の物価高騰対策は

答 この30年におよぶデフレによる「賃金上昇が無い中、新型コロナなどによる物価高により市内経済が停滞し、市内企業、そして市民は大変困窮している。国や県の支援が不足する中、市民のためにもっと積極的な支援が来ないのか。

問 昨年公共料金の見直しを実施し、市民負担が増えている。改めて見直すことは出来ないのか。



名目賃金の推移

問 総合計画策定への市長の思いは



曾根充敏 議員

答 思いは「住み続けたいまち登米市」



問 令和8年度から、第三次登米市総合計画に基づいた市政運営が始まる。総合計画は、10年間のまちづくりの基本でありながら、さらにその先に広がる未来への橋渡しでもあると考える。



令和8年度からは新しい計画に



熊谷和弘 議員

問 災害に対する確かな備えを

答 災害に強いまちづくり



問 今年1月、政府の地震調査委員会は海溝型地震などの30年以内の発生確率を引き上げた」と報道された。宮城県沖地震については30年以内の発生確率を80〜90%に引き上げている。自らを、そして大切な人を災害から守るため、本市、さらにはそれぞれの家庭や一人ひとりに対しても、さらなる「災害に対する確かな備え」が重要であると考えていることから、次の4点について市長の見解を伺う。



非常持出袋

問 施政方針に人口減少対策として移住・定住子育て支援、若者育成・交流、市街地の活性化などを挙げていますが、特効薬となる具体化できるものはあるのか。



田口政信 議員

問 持続可能な登米市づくりの戦略は

答 人口減少対策・後継者支援に注力を



移住体験への助成

問 協働のまちづくりの運営主体の自治会やコミュニティ組織の再構築についての見解は。

※ムービングハウス…トラックやコンテナ船に載せて輸送できる移動式木造住宅。国際規格の海上輸送コンテナと同じ形・サイズ（長さ12m×幅2.4m、高さ約30m）に統一されている

問 一層の思い合い・支え合い社会を



答 賑わい広げ元氣なまち目指す



中澤 宏 議員

問 まちの活気が薄れつつある認識を質す。

答 合併当初9万1468人の人口は、令和6年12月末時点で7万1919人。

問 約21%の減少となっているが、東和、石越、津山は30%を超す減少率となっており周辺地域における減少率は高い。

問 出生者数はどうか。

答 平成17年は、634人だったが、令和6年には270人まで減少した。石越町域は41人から12人に、津山町域は、19人から4人に著しく減少している。

問 今までは、個人の自立、地域の自立を支援してきたが、これからは家族も地域も町も、共に支え合う社会が一層大切だ。まちの中心部と周辺部も



まち全体ににぎわいが波及していくイメージ

問 子育て用品支給券再開は出来ないか



答 施策を着実に実行し少子化対策を行う



須藤幸喜 議員

問 物価高騰と人口減少が続く中、子育てに奮闘している家庭への一助となる質問を行う。

答 平成18年から30年まで支給していた1歳までの子育て用品支給券を再開は出来ないか。

問 本市で独自事業として行ってきたものだが、誕生祝金として現金支給に切り替えた。

答 従来の第3子以降への10万円支給に加え、第1子3万円、第2子に5万円支給とした。



登米市子育て応援ロードマップ

とし、「子育てロードマップ」に示せないものか伺う。

答 本市の支援水準は他自治体からしても上位に位置している。

問 現時点では新たな独自の支援策は予定していない。

答 新たな独自支援は無いとの回答だが、現在の誕生祝金への加算としたソフト面の充実を検討しては。

問 しっかりとした周知をし、充実に努める。

答 登米町に子どもや高齢者の集える公園整備を寺池城址公園の木々を剪定、除去し、景観を整えてはどうか。

問 適切な公園環境の維持管理に努めていきたい。なお、地域の公園整備に当たっては、市有地の活用も含め、調査研究を行う。

問 土葬墓地の設置は



答 課題もあり、慎重な検討が必要



首藤忠則 議員

問 市営迫佐沼墓地139区画の使用状況は。

答 昨年12月末における使用中の区画数は1256区画で、承継されず管理がされていない区画は18区画である。また、墓じまいのための改葬許可申請件数は、4年度から6年度12月末時点までで合計12件である。使用中の区画の宗教別内訳は、使用許可申請書に信仰する宗教の記載を定めていないため、把握していない。また、土葬による区画使用はない。

問 樹木葬および散骨についての市長の認識は。

答 近年、墓の管理継承者がいないなどの理由により、寺院による永代供養、樹木を墓標とする樹木葬、海や山への散骨などは、今後も増加すると



樹木葬がある石森霊園

思われ、多様な価値観や選択肢を尊重することは大切であると考えている。

問 本県の村井知事は、土葬を望むイスラム教徒を念頭に、土葬墓地の県内への設置に意欲を示し、批判があってもやらねばならない」と発言しているが。

答 土葬墓地の設置は、多文化共生社会の実現に向けた環境整備のひとつとして大切であるが、わが国では火葬が一般的であることや、周辺住民の同意などの課題もあり、慎重に検討する必要がある。

その他の質問
・指名競争入札について

問 ウェルビーイング向上を目指して



答 施策推進に重要な視点と捉えている



遠藤真理子 議員

問 ウェルビーイングの考え方を市民全体に伝えていくためには、市民とじかに接する職員の精神状態を良いものにしていくことが求められる。

問 職場内で行っているウェルビーイングな取組はどういったものがあるのか。

答 職員全体に対してストレスチェックを行い、個人個人の状況把握をし、その結果をそれぞれの管理職にも渡し、それをもとにした個別の面談などの取組を行っている。働きやすい職場環境づくりに努めていきたい。

問 教員の職場環境での満足度、心理状態という調査は行っているのか。

答 直接的なアンケートは行っていない。

問 今後取り入れていく



佐沼小学校の「放課後遊びプロジェクト」

問 佐沼小学校では「放課後遊びプロジェクト」を行っている。学校運営協議会が主体となり、ボランティアとして子ども達に関わっている講師の方々へ、時間に見合った対価、有償ボランティア制度を、いち早く予算化していただきたい。

答 地域との繋がりは非常に大事なものと捉えている。1つの手法として効果があれば、そういったことも前向きに検討する必要があると思う。

問 (仮称)地域交流センターの具体的な概要は



答 具体的には設計の段階で検討する



岩淵正弘 議員

問 (仮称)地域交流センターの基本構想の最終案が公表された。そこで、具体的な施設の概要や施設に対する市長の思いについて伺う。

答 まず、本市らしさを表現するため、木造を検討しているところだが、本市産の木材は積極的に活用するのか。また、木造の場合の耐震工法については、どのようなものになるのか。

問 本市の地域資源である木材を積極的に活用する方針である。耐震については、他に耐火性や建設コストなどの理由から、主要構造部分を木造とすることは難しいと考えている。

問 図書館は地域の歴史や文化を発信する拠点の役割も担うべきと考える。



市全域とつながり連携する施設のイメージ

答 行政機能や市民交流機能などを複合化させることで市内外の新たな交流が生み出される。本施設が拠点となって、施設から中心市街地へ、そして市内各地へと賑わいを広げ、元氣のあるまちを目指す。

問 地元出身の石ノ森章太郎氏や大友克洋氏の作品ブース設置について、進捗状況は。

答 建物の設計と並行して具体的な検討を進める。

問 10年後も人口6万人台を維持するため、少子化対策や賑わい創出が重要である。この施設が活力の核となる理由をどのように考えるか。

答 行政機能や市民交流機能などを複合化させることで市内外の新たな交流が生み出される。本施設が拠点となって、施設から中心市街地へ、そして市内各地へと賑わいを広げ、元氣のあるまちを目指す。



問 デマンド型乗合タクシーの導入可能調査を



答 他の運行主体についても検討していく



工藤淳子 議員

問 登米町ではタクシー会社がなくなり「通院や買い物など大変だ」という声が多く寄せられている。デマンド交通を導入する可能性調査、運行エリアの拡大とともに、各支所が運行管理に関与する検討はできないか。

答 導入に向けての説明を積極的に行い、事業開始につながるよう取組む。運行主体はコミュニティ組織だが、他の運行主体もありうる。

問 地域住民の助け合いで行われる移動支援に、支援者の登録や任意保険への加入などを条件に、燃料代を助成するなど、市の支援とルール作りを検討できないか。

答 デマンド型乗合タクシーをさらに補完するようなものであれば、検討



デマンド型乗合タクシー実証運行

その他の質問
・介護保険制度について

問 生きものと共生する農業のまちを



答 関係団体と地域が連携して取組む



永島順子 議員

思いや技術を持つ住民の「話し合いの場」が重要と考えるがどうか。

【答】 各方面から、意見・提案をいただけるようシンポジウムを継続して開催する。

若い女性が活躍できる環境整備を

【問】 若い女性の起業や多様な働き方を支援する仕組みを充実させるべきではないか。

【答】 家事や育児、介護など家庭内でも女性の負担は依然として大きいのが現状である。研修会を開催するとともに、ビジネスチャンス支援事業に女性が積極的に参入してもらえるよう周知を図る。



冬みず田んぼ

【問】 トキと共生する里地づくり取組地域」への指定や「オーガニックブレッド宣言」を契機に、環境に配慮した農業への理解が幅広く進み、慣行農業と有機農業がバランスよく共存して、本市農業の価値がさらに高まることを期待する。生態系に配慮した農業の環境整備は進んでいるのか。

【答】 佐渡市やトキと共生する里地づくりネットワーク協議会、環境省、鳥類保護や生態系保全に関わる団体などと協力体制を構築する。ふゆみずたんぼやビオトープの整備については、農業者と連携して多面的機能支払交付金などを活用して取り組む。

【問】 平成29年の一般質問で「芝生化に向けて調査研究を進める」と答弁している。調査の結果はどう進み促しているのか。

【答】 中津山運動場を芝生化するには、芝に適した土壌の入替えと共に、散水設備などを整備する必要がある。現時点では、芝生化は難しいと考える。また現場を見ると良くないと感じている。ぬかるみがあつたり、場所場所差があるという印象である。



水はけの悪い中津山グラウンド

【問】 米川の水かぶり行事は、800年以上の歴史を誇る火伏の行事であり2018年、国連教育科学文化機関「ユネスコ」の無形文化遺産に登録指定を受けている。開催日は毎年2月初午で今年は2月6日(平日)、東和町米川の伝統行事である。

【答】 世界に誇れる文化遺産が市内にあるが、登米市の関わりがあまりにも見えない。初午は市民の休日とし、こぞって盛り上げるべきであると思う。地方自治法では特別な歴史的、社会的意義を有しているときは休日として定めることができる第4条の2、3項」とされている。



米川の水かぶり行事

問 火伏行事を市民の休日に



答 特定の日としての位置づけは難しい



伊藤 栄 議員

ら、初午の日は市民の休日とし、こぞって盛り上げてはどうか。

【答】 地方公共団体が独自に定める休日は、きわめて限定的で全国では2例のみで沖縄県「慰霊の日」広島市「平和記念日」を市の休日と定めている。

米川の水かぶりについては、毎年2月の初午の日に行われ、開催日が定まっていことから登米市の休日や特定の日として位置づけることは難しいと考える。

世界に誇れる伝統文化であり、市公式ホームページやSNSを活用した情報発信など積極的に取り組んでいく。

Voice

第4回 市制20周年！
100歳をむかえた大先輩にお話を伺いました。



●佐々木としこ様(登米町)
1925年1月5日生まれ

「1番記憶に残っていることは何ですか？」

「戦争の空襲警報だね。あんな想いはしたくないね。アメリカの飛行機、戦隊で飛んでくんの。」

「見えるわけですか？」

「うん、見えるの。田の草取りをしていってね、飛行機が帰っていきぐまで草かぶって、じつと隠れでん

の。」

「忘れられないですね」

「うーん、忘れられないねえ。ウーって飛んでくつから。おどこの人だちは中学校出ると、軍事工場なんかみんな引張っていがれで。」

「鉄のモノはみんな持っていたのか」と聞きましたか？」

「あー、鉄は全部だ。昔、刀、タンスにいっぱいあった。学芸会なんかで、みんな借りさくんの。」

「長生きの秘訣はなんですか？」

「私は料理が好きで、煮干しなんかも気仙沼さいつて買ってきて、そばやうどんも自分で打ったよ。テレビにもでたもの。」



「えー、すごいー！」
自分で縫ったの着てんの。」

「とよまの町の変わりよ」
うとかどうですか？」

「人いなくなつてねえ」
「にぎやが1番子供だちから何が何までねえ、大勢だった。いま、なんかさびしくなつたねえ。」

「昔はこうだったけど、また戻って欲しい」ということはありますか？」

「やっぱり人だね。昔はやんだつてなんだつて、仲人がいて、あの人さ、あの人いんでねがなんてね」

「これからの子や孫たちといった若い人たちへメッセージあればお願いします。」

「幸せになつてもらいたい。」



●ハ乙女てる様(迫町)
1925年2月9日生まれ

「これまでの人生を振り返って思ふことはありますか？」

「今の暮らしはどうですか？」
「長い人生色々ありましたが今は幸せいっぱいです。」

「好き嫌いがなく食べられるんですか？」

「はい、頂きます。そのうちでもお魚が好きで、刺身が好きです。」

「元気の秘訣って何かございますか？」

「そうですね、自由にさせてもらつてるし、食べたものを食べるからね。」

「登米市の子どもたちへ」

「私、父親早やぐなぐしているの、母親のかだるこどばを今でもいがして生活しております。わだしより厳しく優しいばあさんでした。はい。」

「私も身にします。長く生きた方の助言だと思えます。」

「そうだね、聞いているかもしれないけども、でぎうるだけ親の言うことを聞いてもらいたいです。」

「私、父親早やぐなぐしているの、母親のかだるこどばを今でもいがして生活しております。わだしより厳しく優しいばあさんでした。はい。」

ハ乙女てるさんは、最後にこれだけは、という事で市民病院に関して「出来る限り受入れて欲しい。たらい回しにならないように願っています」とお話をしました。

お二人とも、1時間ほどのインタビューではしつかりと受け答えしてくださり、時には笑いもあり和やかに行うことができました。

ご協力いただきありがとうございます！



人 事

人権擁護委員候補者の

推薦に同意

乾 いぬい
和 かず
子 子氏（迫町）大 おお
浪 なみ
静 しず
江 江氏（米山町）

佐沼中学校3年生が議会を傍聴しました



佐沼中学校では「ふるさと教育」に取組んでおり、その一環として2月18日に、2月定期議会を傍聴していただきました。



タイトル：日向ぼっこ

この作品を制作する上で意識したのは、春のあたたかい雰囲気を感じられるような作品にすることです。猫が心地よさそうに日差しを浴びながら草原で日向ぼっこをする様子を暖色を多く用いることで表現しました。また、たんぽぽの綿毛を描くことで爽やかな春風を感じられるように工夫しました。猫の毛並みや模様を描くのはとても難しく、繊細な作業でしたが、何度も塗り重ねながら試行錯誤を行うことで仕上げることができました。

この作品を見ている人にも、春特有のあたたかさを感じてもらい、この猫と一緒に癒されて欲しいです。あなたのお家の猫も自分のお気に入りの場所で、日向ぼっこを楽しんでいるかもしれません。

宮城県佐沼高等学校 3年 杵淵 萌

表紙の絵について

あとがき

先日、実話を題材にした映画『ドリームホース』に触れる機会がありました。

この映画は、ウェールズの田舎町に住む一人の女性が、単調な日常に疑問を抱く中で競走馬を育てる夢に挑戦し、その夢が次第に村全体の希望となっていく物語です。彼女の情熱と努力は、多くの人々を巻き込み、やがて競走馬は大舞台で活躍するまでになります。

（佐々木好博）

広報広聴委員会

委員長 佐々木好博
副委員長 伊藤 善博
委員 浅田 琢哉

遠藤真理子
鈴木 実
曾根 充敏
岩淵 正宏

議長 関 孝

議会からのお知らせ

5月招集議会

5月16日（金）開会予定

本会議はインターネット中継でご覧になれます。

ご不明な点等がございましたら議会事務局までお問合せください。

スマホで！



議会中継



facebook